

Editors 濱松 翔 別所 大誠 佐藤 水香 平井 聡一郎
Publisher 東京理科大学 伊藤香織都市計画・都市デザイン研究室
〒278-8510 千葉県野田市山崎 2641 TEL 04-7123-4785
URL <https://www.rs.noda.tus.ac.jp/~i-lab/>
Print 祥美印刷株式会社

fab C.

Professor 伊藤 香織
Assistant Professor 高柳 誠也

D2 一谷 和希 常泉 佑太

M2 岡村 隼多 金沢 優輝 孫 溪澤 田中 里実 土屋 遼太郎 徳永 景子 東 裕花里 結城 和佳奈

M1 大山 優 岡野 遼太郎 北村 公佑 島 茉莉香 中積 弥恒 平井 聡一郎 室賀 恒輝

B4 天野 航一 伊藤 陽人 佐藤 小珠 佐藤 水香 鈴木 楓 辻 耀 濱口 桂帆 濱松 翔 別所 大誠 南谷 優太 四方田 綾乃

i-Lab

fab C. は伊藤研究室(東京理科大学理工学部建築学科)が発行するフリーペーパーです。
研究室の活動を中心に都市の研究とデザインに関する情報やメッセージを発信する媒体を目指しています。



Contents

▶ fab C.

✕ vol. 17



01 パブリックライフ・
ウィーク in 金沢 +
金沢



08 ピクニックインタビュー +
金沢



13 夏合宿 in 五島列島 +
五島



17 活動報告 +
浅草 両国 伊豆 台場
金石 横浜 江戸川台 柏



21 論文・設計 +
運河

Public Life Week in Kanazawa



伊藤研究室と金沢市との共同研究の一環で、2022年10月にパブリックライフ・ウィークを開催しました。まちなかの公共空間を使いこなす生活文化が根付くことを目標に、市民の皆さんに様々な使いこなしを積極的に試していただく取り組みで、期間中にはワークショップ、シンポジウム、コンテストなど様々なプログラムを実施しました。また、事前に数回のワークショップや調査を行いました。市民の使いこなしスキル向上を目指すところが特徴です。学生もデザイン、制作、広報、運営、調査などに主体的に関わりました。

(運営：D2 一谷・常泉、M1 大山・岡野・北村・島・中積・平井・室賀、B4 伊藤・辻・濱松)

スケジュール

10月の「パブリックライフ・ウィーク」に向けて、5月から準備を進めました。

第2回ワークショップ

レクチャーの後、人工芝が暫定設置された広場で過ごしてみる体験をし、過ごしやすさや過ごし方を考えました。

オープニング WS

参加型で香林坊にぎわい広場に人工芝を設置し過ごしてみる体験をし、空間の変化を楽しむワークショップを実施しました。

おそとワーク DAY

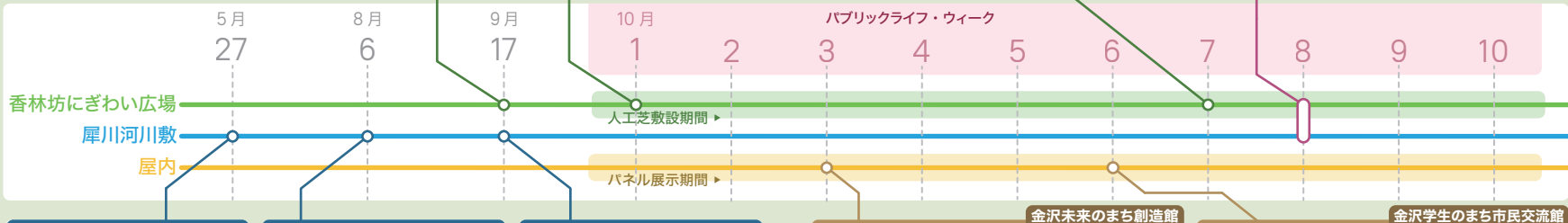
広場にテーブル・椅子・パラソルを設置し、リモートワークや打ち合わせなどのおそとワークを体験しました。

パブリックライフ・コンテスト

パブリックライフの腕前を競うコンテスト。プレイス、ツール、ライフスタイルの3つの基準で審査が行われました。



Webサイト・動画



ピクニックミーティング

まずは、市役所やコンサルタントの担当者の皆さんや富山大学の方々とはピクニック形式で打ち合わせをしました。

第1回ワークショップ

犀川河川敷でレクチャーと過ごしてみる実践 WS を開催し、参加者と過ごし方のアイデアなどを共有しました。

第3回ワークショップ

コンテストに向けたレクチャーの後、過ごしてみる実践 WS を開催し、河川敷の斜度の活かし方などを体験しました。

ミニシンポジウム

金沢のまちと公共空間を考える

行政、文化芸術、まちづくりなどの立場から、金沢のまちと公共空間に纏わる状況、政策、取り組みを議論しました。

マチノバクロストーキング

まちなか公共空間の可能性

伊藤教授の話題提供の後、市役所や金沢まちなか公共空間にぎわい協力団体から取り組みについて意見交換をしました。



パブリックライフ・コンテスト
の入賞者のみなさんのパブ
リックライフをご紹介します。



こだわりのサンドウィッチ

パブリックライフ・オブ・ザ・イヤー # 犀川河川敷

環境を活かした繊細かつ大らかな場づくりで優勝した
金沢美術工芸大学の学生チーム。



北欧スタイル

コンテスト2位 # 犀川河川敷



弾丸野点 # コンテスト3位

犀川河川敷



チームプレー

コンテスト入賞 # 犀川河川敷



出勤前のコーヒープレイク

コンテスト入賞

香林坊にぎわい広場

金沢では、研究室メンバーも
市内のあちこちで様々な過ごし
方を実践しました。



犀川河川敷

作業の合間に



香林坊にぎわい広場

おそとワーク



香林坊にぎわい広場

トランプ



国立工芸館

極上芝生ピクニック



研究室ピクニック # 東山河岸緑地

10月8日に行った研究室の秋ピクニックのテーマは「金沢らしさ」。
インタビューゲストの金田さん・モリ川さんも飛び入り参加。



参加学生の声



広場デザイン 大山優 (M1)

広場に人工芝を配置することで人の居場所を作り出しました。製作の過程では人工芝の歩留まりにまで気を配り、デザインとコストの両立を図る重要性を学びました。また、様々な大きさの人工芝を作成することで多様な過ごし方を設計することができました。



🗨️ 1 🔄 10 ❤️ 3 📄



運営 平井聡一郎 (M1)

私は動画解析や広報デザインのほか、学生が担うタスクの管理など、全体を統括する役割を担いました。各々の学生が自分の強みを生かして関わることができたのではないかと思います。研究室としてはここ数年で最も大きなプロジェクトでしたが、来年以降も学生が主体的に動けるよう、この経験を生かしたいと考えています。

🗨️ 3 🔄 10 ❤️ 1 📄



広報 室賀恒輝 (M1)

当日までにInstagramの投稿デザインや取材を行いました。また、当日にはチラシを用いた宣伝に加え、自分自身も公共空間を積極的に使い、一市民としてプロジェクトに参加しました。PLWを通して、市民参加を促すことの大変さを学ぶことができました。また金沢の街の魅力を知り、都市の面白さを改めて実感しました。



🗨️ 3 🔄 1 ❤️ 10 📄



解析 岡野遼太郎 (M1)

社会実験時の風景を動画に収め、AIによる姿勢推定や画像認識を行うことで滞留行動の分析を試みました。イベントの運営に携わりつつ、分析手法について学んだり、芝生の設計などを参照してカメラの設置位置を検討するなど創意工夫を凝らしました。今回の動画分析を、今後の研究に役立てていきたいと考えています。

🗨️ 1 🔄 3 ❤️ 10 📄

Picnic Interview



金田みやびさん

Gallery TEN オーナー
アートディレクター

モリ川ヒロトーさん

映像クリエイター
音楽家
写真家

ピクニックインタビューでは、毎年ゲストを招き、くつろいだ雰囲気の中でお話を伺っています。

今回はあいにくの雨だったため、ひがし茶屋休憩館をお借りして
金田みやびさんとモリ川ヒロトーさんにお話を伺いました。

金沢への思いが 今の活動につながっている

—お仕事について教えてください。

モリ川さん 元々は音楽家になろうと思っていました。街を歩いていて、ここはこんなメロディーだなとか、ここはこうだなとか、その雰囲気をもロディーに変換するのが好きだったんです。パプルのちょっと手前の頃、ローリー・アンダーソンっていうアメリカのモダンアーティストを東京で見た時に、「あ、これだ。これやろう」と思って多摩美に行きました。そこでビデオアーティストみたいなことをしていたら、映像制作の会社に



誘われて、そこからは映像と音楽の仕事を並行してやっています。そんなときに金沢に新幹線が来るってことになり、観光で消費されてしまうんじゃないかと不安になって、金沢のことをもっと表現しなくちゃいけないぞと思ったんですね。それで東京を畳んで金沢に帰ってきて、観光協会を説得して金沢の魅力を紹介するブログを作ったりとか、僕の映像と音楽で能楽師さんに舞ってもらったりとか、「金沢ってこんなとこだよ、もっと面白いよ。映像にもなるし音楽として表現するとこんな風だよ」みたいなことを延々やってきました。今では、金沢おどりっていうイベントでも僕の映像が使われるようになったりとかして、ちょっとは役に立ってきたかなって。金田と結婚してからは彼女の補佐をしつつ、今いったような映像や音楽の仕事に加え写真作品も出したりとかしながら金沢で過ごして、間もなく60歳みたいな感じです。

金田さん 私は母が始めたギャラリーをたまたま継がなければいけない環境だったんですね。母はもともと日本海造型会議という現代美術の活動もしています。そもそも金沢ってす

ごく作家の多い町なんですけど、私が継いだ当時って若い人たちは自分の作品をどう発表すればいいとか、作家としてどう生きていくべきとかわかっていない時代だったので、変な使命感から彼らをどうにかしなきゃいけないって思って、必死にギャラリーを運営したっていうのが最初ですね。ここ5、6年くらいの主な仕事としては、コミッションワークってあって、建物の中、特にホテルの中に美術品を納める仕事を主にしていて、例えば建物の設計段階から、ここにどうい美術品を入れたいかをデザイナーと話し合っていて、それにふさわしい作家をチョイスして、その作家と一緒にその場所に合う作品を作り上げていくってことをやっています。そうやって作家に発表の場を提供するとともに、人と人を繋ぐ仕事にもなっていますね。

21世紀美術館が金沢のアートを変えた

—金沢のアートはどのように変化してきたのですか。

金田さん 私がギャラリーを継いだ頃は、一

般の人からするとなにをやっているところかわからないみたいな感じだったんですね。皆さん焼き物とか漆器は見慣れているけれど、そうじゃないものを展示しているのは不思議に見えていたようです。でも今では「なんですかこれ？」っていう人は少なくなって、それはやっぱり金沢21世紀美術館のおかげですね。また伝統工芸の人たちの動きも、現代美術によって随分と変わったなと思います。これまですごく離れていた世界観だったんですよ、現代美術と工芸って。それが今は工芸が現代美術にすごい刺激を受けて、またそれに対して工芸ってカッコいいよねって思う若い人たちもたくさん出てきて、みたいな関係になっていますね。新しい工芸



作家さんとか、もう全然アプローチが違います。だからみんながそれぞれにいろんな道を探して進んでいるって感じがします。

金沢人は、ひとりひとり 何か革新してやろうって思っている

—金沢の文化を受け取って生きてきたな、
というような感覚はありますか。

金田さん 使命感を感じていたことは一時期ありました。「金沢の人間なんだからこうでなきゃ」とか、「もっとこうしなきゃ」とか。でもやっぱり、ずっとそうやって考えているとしんどくなってきてしまって。だから最近では、私はここに対して何ができるのかわかっていうくらいで留めて、そういった議論をほどよく眺めている感じですね。すごい使命感を持っている人たちはやっぱり多いと思います。

モリ川さん 僕の場合は、ただ美味しいお店があるから教えたいくらいの延長でしかないかもしれないですね。あとひとつ言うと、金

沢って実は名物がないんですよ。どんなに美味しいものが出来ても、それを真似たものが並んだりすることがないですね。それは意外と金沢人の矜持なのかもしれない。伝統の街ではあるけれども、ひとりひとりとはなんか革新してやろうって思ってるんじゃないか、そういう気質の街なんじゃないかって僕は思います。

金沢の魅力は、気持ちの一番大切な 部分を出さずにはいられなくなるところ

—金沢の魅力とは、改めて言うところでしょうか。

金田さん 私は金沢での暮らしは長いけれど、ずっと外ばかり見ていました。でも、モリ川に会ってこの人が撮る写真を最初に見たとき、「金沢ってこんなに綺麗なの？」ってすごくびっくりしたんですよ。今では、とっても贅沢な暮らしをしているというのは日々思います。ようやく気づいたところなので、まだ金沢初心者みたいなものです(笑)。

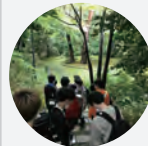
モリ川さん 金沢に住んでいると人生の記憶が濃厚になります。金沢って四季の変化がすごい細かいんですよ。四季と言わず12くらいに分かれるよねっていつも言っています。そのうえ天気もくるくる変わるから、雨が降ったあとそこに日が照ると、そういった季節の香りが濃厚に立ち上がってきて、「あのときこんなことあったな」とか折々の記憶と結びついて、同時に喚起される。そうすると愛情が迸るといえる、気持ちの一番大切なものが外に出ちゃう、出さずにはいられなくなってしまう。そんなところが魅力なんじゃないかなって僕は思います。



モリ川ヒロトー まちあるき語録

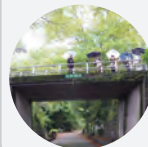
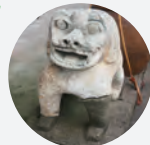
インタビューの前に、ひがし茶屋街・卯辰山周辺でモリ川さんによるまちあるき「プラモリ川」を行いました。

音の感じとか空気、香りとか、周りを囲んでる空間の感じが違う。あの細い階段を登ってくると、ちょっとだけ次元が違う。



金沢は雨がとんでも多いけれど、街中に油葉がかかってるっていうか、艶が出るっていうか。雨の良さは結構いっぱいある。

スフィンクスみたいな、変わった形の楽しそうな狛犬は、こっちの地方でよく作られていて、神楽坂の神社にもこの形のものがある。



坂ってすごい人間くさいっていうか、色々考えながら作っていった気持ちをじわじわ噛みしめながら。

Summer Camp



2022年8月21日～23日に長崎県五島市で夏合宿を行いました。
福江島と久賀島を巡り、城下町としての福江のまち、点在する潜伏キリシタンの教会、
火山によってできた独特な地形をはじめとする豊かな自然など、
離島ならではの独自の環境を学びました。久しぶりのフィールドを楽しみ、
学年を跨いだ交流ができました。(企画：M2 土屋)

旅程

8.21 Sun

- 福江港 *Start!*
- 歴史資料館
- 武家屋敷通り
- 鬼岳
- 鏡瀬熔岩海岸
- 堂崎天主堂
- 福江市街地 *Goal!*



8.22 Mon

- 福江市街地 *Start!*
- 三井楽教会
- 柏崎公園
- 高浜海水浴場
- 水ノ浦教会
- 魚津ヶ崎公園 *Goal!*



Check!



8.23 Tue

- 福江港 *Start!*
- 富江
- 田ノ浦港
- 浜脇教会
- 久賀島
観光交流センター
- 旧五輪教会 *Goal!*



五島探訪マップ

- 8/21
- 8/22
- 8/23

三井楽教会

大村藩での迫害から逃れてきた信徒によって1880年に初代の聖堂が建立された。1971年建立の現聖堂はモザイク壁画が特徴的。



水ノ浦教会

1880年建立の教会の後に、1938年に鉄川与助設計で建立された現教会は、木造教会としては最大規模を誇る。



柏崎公園・辞本涯の碑

遣唐使最後の寄港地と言われる。空海の言葉と言われる「日本最果ての地を去る」という意味の碑がある。



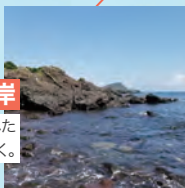
高浜海水浴場

「日本一美しい砂浜」とも称され、魚藍観音展望所から見渡せる。30万年前の火山活動で誕生した三井楽半島の根元に位置する。



鐘瀬熔岩海岸

5万年前の鬼岳の噴火で流出した溶岩で形成された海岸。7 kmに渡って、黒くゴツゴツした岩肌が続く。



牢屋の窄殉教記念聖堂

約200人のキリシタンが監禁され42人が亡くなった、悲劇を伝える信仰の聖地。中央にある塔には、霊名と名前が刻まれている。



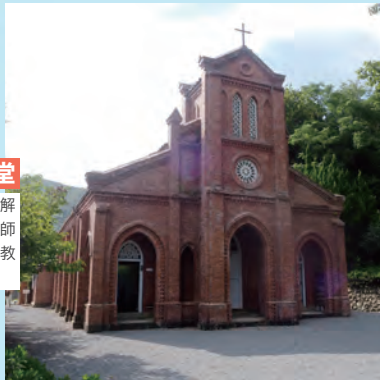
旧五輪教会

1881年に建設、1931年に移築された本教会は、現存する木造教会としては最古の部類に入る。外観は和風建築、内部は三廊式の教会建築。



堂崎天主堂

明治になってキリシタン禁制が解かれ、迎えたフランス人宣教師によって建立された。五島布教の中樞の由緒ある教会。



石田城(福江城)

幕末に黒船の出没を受けて、五島藩は海岸防衛のために築城が許可され、1863年に完成した。日本最後の海城として知られる。



鬼岳

鬼岳火山群のひとつである標高315mの火山。2~3年に1回の野焼きによって、全面緑の芝生で覆われている。福江島のシンボル。



福江島

久賀島

Activities

春合宿

研究室新メンバーを迎えて、春合宿を行いました。日中は隅田川の周遊船を体験した後、休館直前の江戸東京博物館を見学しました。夕方からは両国で研究中間発表を行いました。翌朝は、隅田公園でのピクニックで親交を深めました。新年度最初のイベントということもあり、新メンバーと打ち解ける良い機会になりました。伊藤研らしさのある良い新年度スタートが切れたと感じます。(企画：M1岡野、B4佐藤(水))

浅草・両国



冬合宿

伊豆



2022年1月13日～14日に、伊豆半島の戸田で論文ゼミを集中して行う冬合宿を行いました。集中できる環境で、卒論・修論ともに大きな進捗がありました。海越しに富士山を臨む絶景が疲れを癒やしてくれました。

春ピクニック

変わりつつあるお台場で、3年ぶりとなる春ピクニックを開催しました。ラグを用いてフィジカルディスタンスを保ちつつ、教員と学生・先輩と後輩の垣根を越えた交流ができました。手の込んだ料理やたくさんのお菓子が持ち寄られ、大いに盛り上がりました。(企画：B4辻・南谷)

お台場



金石報告会

2021年度の卒業研究では金沢市の金石地区の調査をしました。インタビュー調査に応じてくださった方々をはじめとする地域の皆さんに向けて、2022年2月に金沢21世紀美術館金石スタジオにて、研究報告会と意見交換会を行いました。金石はどのようなまちか、将来の展望など活発かつ濃密に意見交換が行われ、卒業研究の分析考察を補強する機会にもなりました。(M1中積、B4天野、OB坂口)

金沢市金石



金石ワークショップ

2022年度は金沢21世紀美術館と共同で、美術館が金石地区で行ってきた活動を振り返り、今後地域が引き継いでいけるように、地域の方々とともに連続レクチャーとディスカッションが行われました。他地域の事例や金石の特性を知るとともに、まちの拠点のあり方、金石らしさ、まちづくりの担い手、活動提案など、金石の今後について議論が交わされました。(D2一谷・常泉)



横浜

まちあるき

11月に3年生の仮配属イベントとして横浜(みなとみらい・日本大通り・山下公園)でまちあるきをしました。天候はあいにくの雨でしたが、魅力的な歩行者空間や景観形成がなされる横浜で、歴史的背景やアーバンデザイン、有名建築物を知るとともに、3年生に研究室を知ってもらえる良い機会となりました。(企画：B4佐藤(小)・辻・濱口)



江戸川台イーストストリートプロジェクト

流山市の江戸川台東口商店街では、2022年度に歩行者空間化の社会実験が2度に渡って行われ、ウォーカブルなまちづくりが始まっています。学生がボランティア活動として参加し、マルシェの準備や運営に関わりました。地域の一人ひとりが様々な意見を持っており、それを反映しつつ活動することの大切さと難しさを実感しました。その中で、イベントを定期的に行い続けることの大切さを学びました。



設計スタジオの一環としては、商店街の街路空間を設計し、暫定空間として実践しました。多くの子どもたちや地域の方々にご協力いただき、大きな達成感を感じました。江戸川台のまちづくりの一助になったと思います。

(M1大山・岡野・北村・島・中積・平井・室賀、B4濱松)

シビックプライド研究会

16年目を迎えたシビックプライド研究会は、現在はオンラインを中心に継続し、225回を数えています。次なる出版に向けて、2022年1月には神戸・近江八幡・岐阜でのインタビュー調査と海外文献の輪読も行っています。2023年3月にはシンポジウム「第3回シビックプライド会議」も開催予定です。

(M2岡村、M1大山、B4濱松)



#江戸川台

UDC2 柏駅周辺回遊性分析

柏アーバンデザインセンター(UDC2)を中心に、柏駅東口周辺を歩きやすく様々な活動が生まれるよう、ウォーカブルに関するビジョンの策定を進めています。そのための基礎的資料として、高柳助教を中心に、学生有志が協力して対象地域の回遊性を分析しています。道路や広場の整備位置が異なる複数パターンを想定し、Space Syntax理論を用いて回遊性評価をしました。



その結果、道路や広場の整備位置の違いによって回遊性が変化することを示しました。Space Syntax理論は都市の回遊性を評価する場合においても重要なツールであることがわかりました。今回得た解析技術は他の場面でも活用できるよう、研究室内で共有していきたいと考えています。

(M1大山・岡野・中積・平井・室賀、B4濱松)



#柏

柏ウエストサイドフェス

柏駅西口で路上を使ったイベントが開催されました。企画段階からイベントに携わり、大学では学ぶことのできない行政や警察との調整といった実務的なやりとりを経験することができました。また、イベント当日は運営の業務を行ったことで、これからの道路活用が広がっていく状況の一端を垣間見ることができました。(M1大山)



Publication

論文

2021年度 修士論文

- 上野亜耶 グループ利用時の公園選択モデル ―千葉県柏市永楽台地域におけるケーススタディー
- 酒井亮祐 スノーリゾートに対する訪日外国人旅行者のイメージ比較 ―野沢温泉と白馬八方尾根を対象として―
- 須藤里佳 屋外公共空間における着座行為の特性 ―渋谷・大丸有地区のキッチンカー出店場所を対象として―
- 前田旭陽 都市景観要素としての人の存在 ―表情・アクティビティ・歩行者量が景観印象に与える影響―

2021年度 卒業論文(通年コース)

- 天野航一, 坂口太一, 中積弥恒 児童期の遊び場にみる地域の構造と変化 ～金沢市金石を対象として～
- 岡野遼太郎, 木山秀一 歩行者実験に基づく街路の性状と魅力に関する研究

2022年度 卒業論文(一般コース)

- 佐藤水香, 濱口桂帆 シビックテックの活動とそれにかかわる市民の意識
- 鈴木楓, 四方田綾乃 屋外公共空間における座席の選択可能性と誘引性
―北千住駅西口ペDESTリアンデッキでの観察から― **最優秀卒業論文賞**
- 佐藤小珠, 南谷優太 災害弱者利用施設の立地傾向と災害リスク ―球磨川流域を対象として―

設計

2021年度 修士設計

- 阿部萌子 移ろう汀―新木場における水辺風景を再興する建築―
- 岩田采子 発酵するまちのつくり方―醸造家の視点で考える自由な公共建築の提案―

2021年度 卒業設計

- 大森彩香 まち織るまちや―衰退する地方旧城下町における町家の新しいかたちの提案―
- 大山優 800mの公民館―小さな風景がつくる公共―
- 北村公佑 谷戸集落再生計画
- 島茉莉香 NISHINARI DOYA PARK―新しいドヤのかたち―
- 平井聡一郎 Telluric Junction―流れをつくる、未来の駅―
- 室賀恒輝 この街の記憶

対外発表論文

- 平井聡一郎, 島茉莉香, 伊藤香織, 高柳誠也(2022), 居住誘導区域における災害リスク―2つの規模の洪水浸水想定に着目して, 日本建築学会学術講演梗概集, 都市計画, pp. 175-176
- 中積弥恒, 伊藤香織, 高柳誠也(2022), 児童期の遊び場からみる地域構造の変化―金沢市金石を対象として, 日本建築学会学術講演梗概集, 都市計画, pp. 347-348
- 常泉佑太, 伊藤香織, 高柳誠也(2022), 東京都におけるアートNPOの立地傾向に関する研究, 日本建築学会学術講演梗概集, 都市計画, pp. 371-372
- 大山優, 伊藤香織, 高柳誠也(2022), 美術館の屋外空間における滞留行動の特性―金沢21世紀美術館がもつ美術館と公園の性質に着目して, 日本建築学会学術講演梗概集, 都市計画, pp. 419-420
- 岡野遼太郎, 伊藤香織, 高柳誠也(2022), 歩行者実験に基づく街路の印象と魅力評価に関する研究, 日本建築学会学術講演梗概集, 都市計画, pp. 811-812
- 室賀恒輝, 北村公佑, 伊藤香織, 高柳誠也(2022), 旧唐桑町における屋号群の領域性と空間構成, 日本建築学会学術講演梗概集, 農村計画, pp. 43-44
- 高柳誠也(2022), 集落の地域活動と人口動態・農業地域類型区分との関係, 日本建築学会学術講演梗概集, 農村計画, pp. 61-62

受賞・出展等

- 大山優 全国合同建築卒業設計展「卒、22」 森田久美子賞(2022) 800mの公民館―小さな風景がつくる公共―
- 室賀恒輝 デザインマガジン「IDREIT」掲載(2022) この街の記憶
- 大山優 第22回CS学生デザイン賞 学生部門 入選(2022) 雲のように
- 大山優 京都府主催第6回Woodyコンテスト 木製家具部門 佳作(2022) トロト



修士設計 阿部萌子



修士設計 岩田采子



卒業設計 大山優



卒業設計 室賀恒輝